

第 16 回国際科学技術関係大臣会合について

”The 16th Science and technology Ministers’ Roundtable”

1. 日 時：令和元年（2019）年 10 月 6 日（日） 12:00～14:40
2. 場 所：国立京都国際会館（京都市左京区宝ヶ池） Annex Hall
3. 出席者：世界 19 ヶ国の科学技術大臣等（日本を含む：別紙参照）
4. テーマ：「STI for SDGs 推進のための国際協力と研究開発」
"International Cooperation and R&D for the Implementation of STI for SDGs"
5. 結果概要
 - （1）竹本科学技術政策担当大臣が会議の議長を務めた。冒頭、竹本大臣から出席各国に対し挨拶を行い、Society5.0 やムーンショット型研究開発制度などにも言及しつつ、会合のテーマについて紹介した。
 - （2）続いて、松尾政策統括官（科学技術・イノベーション担当）より、日本における STI for SDGs に関する取組を紹介し、下記の会合における、ディスカッションポイントを説明した。
 - 各国は、STI for SDGs の推進において、どのような課題に直面しているのか。
 - STI for SDGs の具体的な取組を実施するにあたって、どのような国際協力が望まれるか。
 - STI for SDGs の推進に多様なステークホルダーを巻き込むためには、何が必要か。
 - 各国は、SDGs 等の困難な社会課題の解決のため、挑戦的な研究開発に取り組んでいるか。それにより、どのような社会課題等の解決が期待されると考えるか。
 - （3）続いて、竹本大臣による進行のもと、本会合のテーマの論点に関し、出席国における取組等について意見交換が行われた。具体的には各国から下記のような発言があった。

●テレコミュニケーションの需要増などに伴い、テレコミュニケーションテクノロジーの乱用が脅威となっている。公共部門におけるサイバーセキュリティ人材が不足しており、人材育成が重要。国家ビジョンの中で、R&Dイノベーションハブになることを宣言し、コンピテンシー開発のための学生向けプログラムの提供、ナショナルリサーチファンドを活用した展示会などを行っている。

●グローバルな研究領域を設定し、技術視点ではなく人間中心の目標の設定が重要。また、AI その他新しい破壊的なテクノロジーにどう対処するかも重要。ユネスコに AI センターができたが、そこでは技術より政策や倫理の話をしている。STI は、あくまで人口・移民・環境などの問題を解決するための前段階である。

●SDGs 達成のためにはアカデミア・企業の参加が必要だが、プライオリティが競合しがち。ターゲットを設けるもの／設けないものの研究開発のバランス、分野横断的なプロジェクト、市民を巻き込んだチャレンジ、ダイバーシティと包摂性、明確なターゲットづくり、ジェンダー平等性のサポート等が肝要。

●STI for SDGs 推進には、下記の点において二国間・多国間の協力が必要。

- ・経験やノウハウだけではなく、テクノロジーそのものの共有のための、国際共同研究のプラットフォーム
- ・SDGs のオープンソース。発展途上国への技術移転、プロダクト・サービス・アイデアの商品化、イノベーションの促進
- ・機械学習等を推進・活用を通じた、言語の壁を越えた普遍的学習の実現と、あらゆる人の能力開発の実現

(4) 小谷総合科学技術・イノベーション会議議員からラップアップが行われ、STI for SDGs の推進にあたって、国際協力、多様なステークホルダーの関与、教育の重要性を共有した。

(5) 最後に竹本大臣から閉会挨拶が行われた。

第16回国際科学技術関係大臣会合 出席者リスト

(2019年10月6日(日) 12:00-14:40)

番号	国名	氏名	職名
1.	カンボジア	チュオン・タヴラック Mr. Tuon Thavrak	計画省長官
2.	カナダ	モナ・ネメール Dr. Mona Nemer	政府主席科学技術顧問
3.	エストニア	マート・ライドメッツ Mr. Mart Laidmets	教育・研究省事務次官
4.	欧州連合	ジャン・エリック・パケ Mr. Jean-Eric Paquet	研究・イノベーション総局長
5.	フィンランド	アニータ・レヒコイネン Ms. Anita Lehikoinen	教育文化省事務次官
6.	イラン	マースド・ブランド Prof. Masoud Bromand	科学・技術・研究省 研究・技術担当次官
7.	ラオス	ボービエンカム・ヴォンダラー Prof. Boviengkham VONGDARA	科学技術大臣
8.	ラトビア	アニタ・ムイズニエス Ms. Anita Muižniece	教育・科学政務官
9.	リトアニア	バルデマール・ラズム Prof. Valdemaras Razumas	教育・科学・スポーツ副大臣
10.	モルディブ	モハメド・マリーフ・ジャマール Mr. Mohamed Maleeh Jamal	通信科学技術大臣
11.	カタール	ムハンマド・アル・ハンマーディ Dr. Mohammed Abdulwahed Al-Hamadi	教育・高等教育大臣
12.	サウジアラビア	サレ・アルカソミル Prof. Saleh I. Alqasoumil	教育省国際協力担当次官
13.	シンガポール	チャン・ライ・ファン Ms. Chan Lai Fung	科学技術研究庁長官
14.	スロベニア	イェルネイ・ピカロ Dr. Jernej Pikalo	副首相、教育・科学・スポーツ大臣
15.	スリランカ	チンタカ・ロクヘッティ Mr. Chinthaka S. Lokuhetti	科学・技術・研究省次官
16.	スウェーデン	マチルダ・エルンクランス Ms. Matilda Ernkrans	高等教育・研究大臣
17.	タイ	スヴィット・マイアシンシー Dr. Suvit Maesincee	高等教育・科学・研究・イノベーション大臣
18.	ウズベキスタン	シャラフ・ラジャバエフ Mr. Sharof R. Rajabbayev	革新的開発第一副大臣代理